



### 食料安保 自給率向上こそが平和への道

政府は食料供給困難事態対策法案を国会に提出した。コロナパンデミックによる国際的なサプライチェーンの混乱、ウクライナ戦争による穀物と肥料の高騰、そして気候危機・人口増加と世界の食料供給は危険な状況にある。日本の食料自給率

は、カロリーベースで38%であり、「有事」に輸入が途絶えると、国民の生命維持が脅かされる。国連食糧農業機関（FAO）は「食料セキュリティ」を「全ての人が、いかなる時にも、活動的に健康的な生活に必要な食料を入手できる」と定義している。FAOによると、日本の食料自給率は32%でOECD38カ国中37位となっている。食料自給率の向上は、食料供給の安定と食料の多様性を確保し、食料の価格変動を減らすことにつながる。この法案は、小麦、大豆などの不足時に政府が供給目標を設定し、農家に増産計画の届

け出を指示できるとしている。従わない場合は20万円以下の罰金を科すという内容だ。しかし、政府によるこれまでの農業政策の結果、農業従事者は減少し続けており、現在116万人のうち80歳以上が23・6万人に達している。DX好きの政府は自動運転の農業機械、ドローン、衛星画像を活用したスマート大規模農業でこの危機を救うとしても思っているのだろうか。医療に必要不可欠な薬品さえ安定供給できないのに、「有事」に対応できるはずがない。ミサイルに税金を使っても、この国を守ることができない。食料自給率向上こそが、真の平和への道である。

矢野正明



連載 第5回

## 能登半島地震

村山嘉昭

長野からボランティアに来た男性が設置した薪風呂でくつろぐ住民（2024年1月、珠洲市馬線町にて撮影）

能登半島地震ではこれまでの災害地と比べて驚くほど「ボランティア」の姿を見かけない。被災後の復旧や復興にはボランティアによる支援活動が欠かせないが、石川県は発災から2カ月以上も能登半島へ入るのを控えてほしいと広報していた。発災直後は被災地域へ向かう道路が至るところで寸断し、渋滞が常態化していた。県は交通集中による混乱を避けるために「不要不急」の移動自粛を呼びかけていたが、メッセージの伝え方が悪かった。要請を拡大解釈した者たちが、現地で活動するNGOや個人をSNSで批判する現象が起きたのだ。住民支援は不用不急に当たらないのに、である。

震源地に近い自主避難所では長野県からやって来た男性が住民支援にあたり、住民に受け入れられていた。男性はこれまでの経験と知恵を生かし、避難所での生活を向上させる工夫を住民らに提案し、実行していた。そのひとつが薪風呂だった。断水のために水は山から引いていた。

組織や個人にかかわらず、ボランティアによる活動は多岐に渡り、それら支援を必要とするタイミングもさまざま。現地の人手不足は深刻で、疲労が限界に来ている住民も少なくない。不用不急を決めるのは被災当事者である住民であり、被災地から遠く離れた人たちではない。

（むらやま・よしあき）写真家。1971年、横浜市生まれ。徳島市在住。農業系出版社勤務を経て、2005年に独立。日本写真家協会会員。

## 住民本位の復興、万博中止など要求 全国災対連

全国災対連の要請書を手渡す  
住江名誉会長（左）



保団連が加盟する「災害被災地復興・復興に関する要請書」を提出した。保団連の住江名誉会長が代表世話人として参画し、「住民本位の復興・復旧に一刻も早く取り組んでほしい」と訴えた。

被災地の復興・復旧について、大企業誘導による「創造的復興」ではなく、被災者のなごりや再建を第一とする被災者生活の徹底、女性や高齢者に配慮した避難所運営などの要求が出された。

参加者からは、災害救助法や避難所ガイドラインの徹底、女性や高齢者に配慮した避難所運営などの要求が出された。

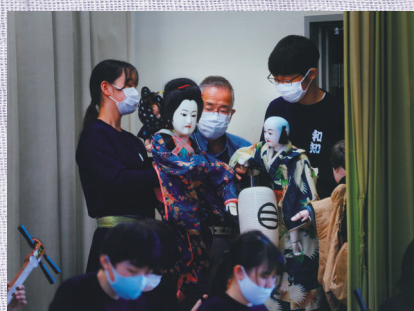
政府側は田辺康彦・内閣府大臣官房審議官が応じた。上下水道の復旧や自宅避難者の見守り、被災した自治体職員や医療・福祉従事者などのケアについて「重要な課題であり、関連省庁でチームをつくって取り組んでいる」と話した。

再建支援法に基づく支援金の引き上げ、建設資材や工事関係者の確保のため大阪万博を中止すること、全国の原発の避難計画見直しと廃炉などを要求した。

## 第35回 全国保険医写真展

募集期間  
2024年4月1日(月)～  
5月15日(水)

- 応募規格 半切またはA3判サイズのいずれか 組写真は不可 カラー・モノクロは自由
- テーマ 個別テーマは設定せず、全て自由テーマとします。
- 出展数 1人2点以下
- 応募資格 会員とその家族・従業員、協会・医会事務局員 他の写真展に応募している作品(または入選した作品)の応募はできません。
- 出展料 1点4,000円 2点目1,500円 (返却を希望される方は梱包・送料(2,000円)が別途かかります。)



写真は前回第34回全国保険医写真展・会長賞 土佐征英(京都市保険医協会)「出番前」

写真展 開催期間 2024年7月30日(火)～8月4日(日)  
募集要項と応募用紙は「月刊保団連」1・2・3月号に掲載。  
お問い合わせは保団連文化部(03-3375-5121)まで

## ジェンダー 4署名

保団連はジェンダー平等に向けた4つの署名に取り組んでいます。

